

**紹介**

「世界の研究室から」

(臨床環境10: 103~104, 2001)

**留学記 Aggie と自転車の町 Davis**

— カリフォルニア大学デイビス校 —

藤岡 一 俊

化学研究者、翻訳家

Kazutoshi Fujioka

私は9月からカリフォルニア州のデイビス市に住んでいます。デイビスはサンフランシスコの北東120km、農業の盛んなセントラルバレーの真只中にあります。ここは UC Davis の学園城下町です。市の人口は5万2千人でそのうち約半分が UC Davis の学生です。アメリカで暮らすのはこれで2回目です。1回目は今から8年前まだ会社員だったとき、ピッツバーグ大学に2年間留学しました。化学修士のおまけに妻がついてきました。そして今回は21世紀を機に会社を辞め、心機一転カリフォルニアへ仕事を探しに来ましたが、まだ職は決まらず目下浪人中です。(ネイティブの英語教師の妻と二人三脚で医学論文の翻訳・校正の仕事を始めました。藤岡英訳工房をどうぞご利用ください。) 私もその1人ですが、アメリカは移民の国です。特にカリフォルニア州にはメキシコ系の住民が多く、英語が通じない人のためにスペイン語が実質的に準公用語になっています。彼らの存在は、あたかも第3世界を身内に抱えているようなもので、強み(安い労働力)でもあり弱点(教育・貧富の差)でもあります。

デイビスに来る前は約半年同じカリフォルニア州のターロックという田舎町に住んでいました。ターロックはサンフランシスコから東に車で2時間かかります。ヨセミテ国立公園に近いので2度行きました。ヨセミテは、春はいいのですが、夏はいまいちでした。名物の滝は水が枯れてただの大岩になり、辺りでは山火事が発生して煙が谷中にこもっていました。その頃の話ですが、2001年6月テキサス州リチャードソン市で行われたアメ

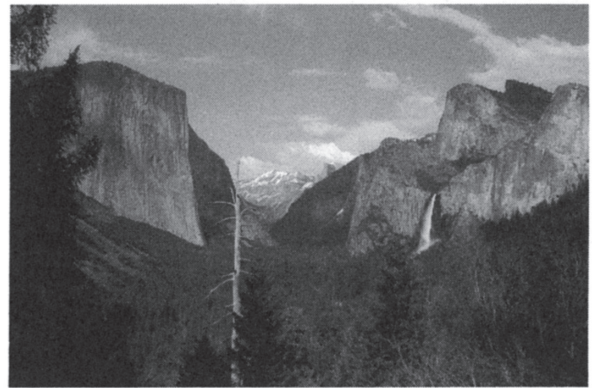


写真1 春のヨセミテ国立公園。Tunnel View からヨセミテ渓谷を望む。滝の水は夏になくなっていた。

リカ環境医学基金による第18回国際シンポジウムに参加しました。今回は、神経毒性の環境的観点为主题でした。内容を紹介しますと、Rea 所長(ダラス環境医学センター)による中枢神経系の神経毒性、Furlong 教授(ワシントン大)によるパラオキソナーゼ(PON1)の多形性、石川環境医学センター長(北里研究所病院)による有機リンの低レベル暴露による神経学的微候、Muller 教授(ミュンヘン大)によるドイツ民間航空機乗務員のピレスロイド暴露による健康への影響、Kupferman 弁護士(ニューヨーク市)によるピレスロイド街中散布による中毒事件など多数の講演がありました。有機リンに関する各国の研究の動向や、Furlong 教授から CS 患者の PON1 を研究する上での示唆を得たことなどは大きな収穫でした。

デイビスの特徴は何とんでも自転車が多くのことです。Bike Lane、自転車用道路が充実しており、“Capital of Bicycle”、自転車の首都という

言葉がふさわしい町です。私も UC Davis の図書館へ行くときは自転車を利用します。キャンパスが広く駐車場の数が限られているので、自動車を使うと目的のビルまで10分以上歩くこともありかえって不便です。近距離の移動には経済的かつ環境的に自転車が優れていることは自明ですが、その普及にはインフラ整備が重要であることを実感しました。



写真2 サイロと自転車の群れ。サイロには食堂が入居している。ほとんど全ての自転車は頑丈にロックされている。

タイトルのアギーとは、UC Davis 及びその学生のニックネームです。その訳は、デイビス校は1908年農学校として設立されたので、農学部(学生)を意味する Aggie と呼ばれるようになったそうです。アギーの“Ag”はもちろん Agriculture からきています。今では総合大学として発展していますが、キャンパスの中に牛小屋があったり、大きな農場を抱えている所は California Aggie ならではです。

この留学記のためにカリフォルニア大学農業医学安全センターの O'Conner-Marer 博士にインタビューをお願いしたところ快く承諾してくれました。

このセンターは1990年に設立され、全米に9つある農業医学安全センターのうちの1つです。彼は統合害虫防疫プログラムの Director で、農薬の安全利用と農業労働者へ適正な農薬使用の教育・指導をしています。前述したように、カリフォルニア州は人種が多様で、ヒスパニック系の労働者が多数を占め、彼らに対するスペイン語での指導は重要です。カリフォルニア州は農薬の規制が



写真3 UC Davis 構内の牛の群れ。耳にタグが付いているのが研究用の印。



写真4 カリフォルニア大学農業医学安全センターの O'Conner-Marer 博士とメイヤーホールにて。

徹底していて、有機リンを使用する農業労働者にはコリンエステラーゼ値の定期的な検査が義務付けられています。また生産者は使用した農薬の量や散布方法を郡の農薬管理課に届出することも義務付けられています。データはインターネットでも検索できるそうなので、私の自宅の周囲でどのような農薬が使用されたかを調べてみようと思います。農薬に関する情報の蓄積と公開に関してはアメリカの方が進んでいるといわざるを得ません。私もできれば UC Davis で仕事を見つけ、有機リンや化学物質の研究ができればいいなと考える今日この頃です。

藤岡 一俊

藤岡英訳工房

1213 Arthur St. Davis, CA 95616, USA

Phone/Fax: 530-758-7549

Email: kazutoshi@bigvalley.net